

夢洲第2期区域マスタープラン Ver. 1.0（案）について （説明資料）

夢洲まちづくり構想【2017年（平成29年）策定】

- ・夢洲地区での観光拠点の形成などの新たな機能を盛り込んだ夢洲全体のまちづくりの方針や土地利用等について方向性をとりまとめ

夢洲まちづくり基本方針【2019年（令和元年）策定】

- ・IR整備法の成立や夢洲での万博開催が決定したことを踏まえ、具体的なまちづくりの方針をとりまとめ

【2022】夢洲第2期区域（大阪・関西万博跡地）に係るマーケット・サウンディングの実施

約 50 ヘクタールという広大なエリアであることから、その開発を一体的に進めるための方針（**マスタープラン**）が必要

【2024.1】 開発事業者募集を2段階とする方針を公表

【2024.9】 夢洲第2期区域マスタープランの策定に向けた民間提案募集の実施

【2025.1】 2件の優秀提案の決定

優秀提案の内容を参考にマスタープランをとりまとめ

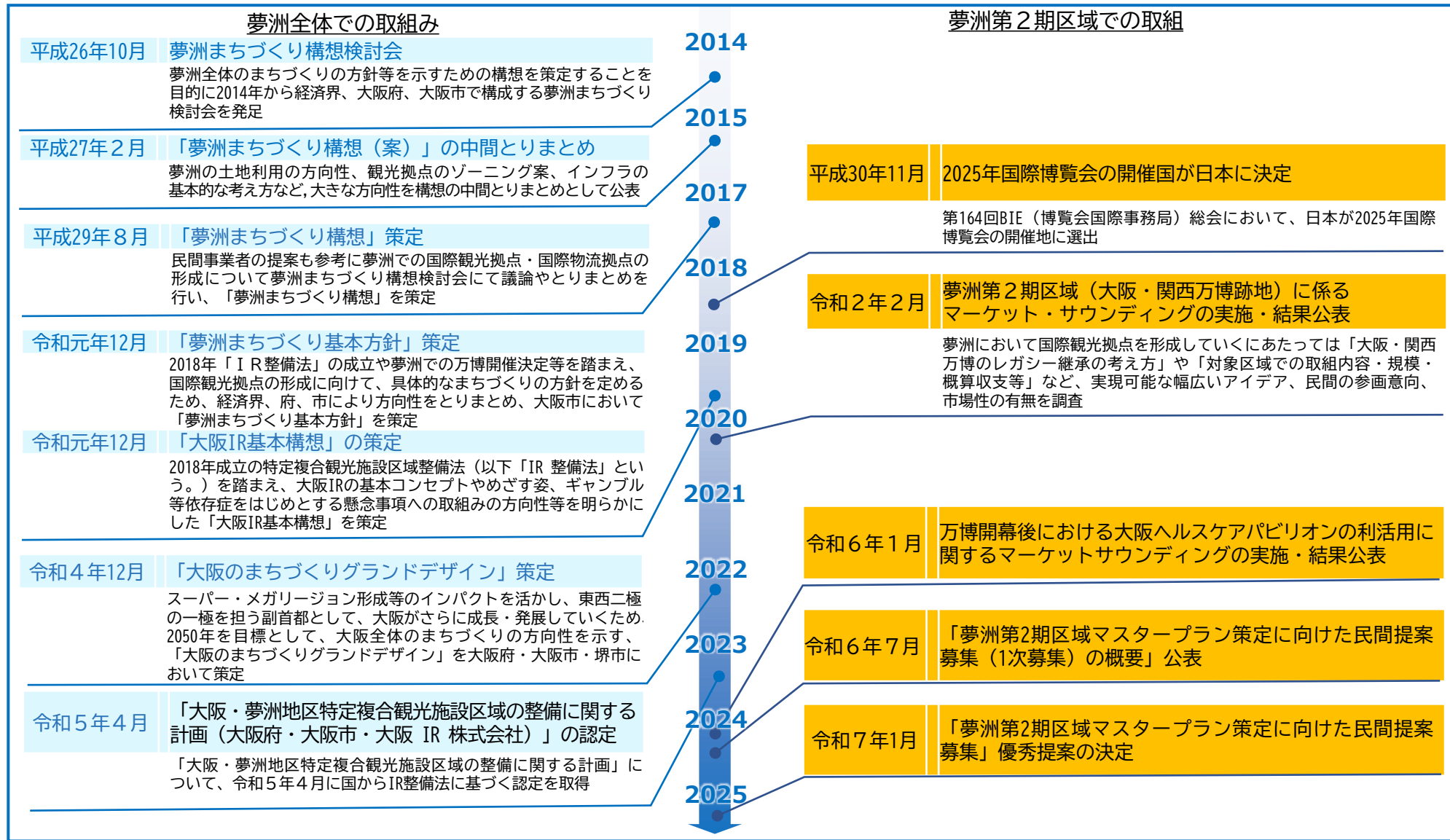
「夢洲第2期区域マスタープラン」の策定

マスタープランに沿ったまちづくりの実現に向け、開発事業者募集の条件を検討

【2025年度後半】 夢洲第2期区域 開発事業者募集の開始

目次

1. 夢洲のまちづくりの経緯と状況
2. 夢洲第2期区域まちづくりの考え方
3. 土地利用方針
4. 都市空間形成の考え方
5. 基盤整備計画
6. 万博レガシーの継承・発展
7. まちづくりDX・GXの推進
8. エリアマネジメントの推進
9. 今後の進め方



2 夢洲第2期区域まちづくりの考え方

コンセプト

万博の理念を継承し、国際観光拠点形成を通じて
「未来社会」を実現するまちづくり

まちづくりの方針

① エンターテインメントシティの創造

- ・エンターテインメント機能やレクリエーション機能、さらにはこれらの新たな創出に向けた産業や人材育成等の機能の導入に加え、万博の理念を継承する最先端技術等を体感できる環境整備などにより国際観光拠点を強化
- ・豊かな水・みどりと上質なにぎわい等が一体となった魅力あふれる「非日常」を感じる空間を創出するとともに、再び訪れたいまちを形成

② S D G s 未来都市の実現

- ・カーボンニュートラル、都市の自然生態系の形成等の環境対策により、S D G s 未来都市を実現
- ・多種多様なプロジェクトを創出するためのプラットフォームの構築や、魅力にあふれ安全安心なまちの実現に向けた、エリアマネジメント組織の組成による持続的なまちの価値向上・活性化

③ 最先端技術の実証・実践・実装

- ・大阪・関西万博の理念を継承し、万博で実施された最先端技術を実践、実装に向けた取組を実施

3 土地利用方針

① ゲートウェイゾーン

- ・夢洲の玄関口として、人・モノが交流し、来訪者に高揚感（ワクワク感）期待感を与えるにぎわい機能や交流機能等の導入
- ・夢洲の立地特性を活かしたナイトアクティビティや、他では経験できない体験（ガストロノミー体験など）が可能な機能等の導入
- ・大阪ヘルスケアパビリオン跡地活用ゾーンに導入される機能と連携した大阪が強みを持つ産業・研究の拠点機能や展示機能、万博を契機に創出される最先端技術やイノベーションに触れられる機能等の導入
- ・来訪者の交流や回遊の拠点となる広場の整備
（導入施設例：商業・飲食施設、オフィス、宿泊施設、交流・イノベーション・インキュベーション施設、広場 等）

② グローバルエンターテイメント・レクリエーションゾーン

②-1 スーパーアンカーゾーン

- ・世界中の人々をひきつけ、ここでしか体験できない「非日常空間」を創出する大規模で統一されたコンセプトに基づくエンターテイメント機能やレクリエーション機能の導入
- ・水・みどりに親しめる空間やオープンスペースなどの整備とともに、子供を対象としたアクティビティなど、ファミリーで楽しめる機能等の導入
- ・地区内の来訪者の回遊性を高める、交流ゾーンやIR連携ゾーンと連携した機能の導入
（導入施設例：国際的なモータースポーツ拠点（サーキットなど）、アイコニックなラグジュアリーホテル、世界クラスのウォーターパーク、商業・飲食施設 等）

②-2 交流ゾーン

- ・ゲートウェイゾーンからの人の流れ、にぎわいをスーパーアンカーゾーン等の隣接するエリアへつなげるハブ拠点の形成
- ・人・情報の交流を促し、にぎわいを創出する展示・交流機能やレクリエーション機能等の導入
（導入施設例：アリーナ、劇場、商業・飲食施設 等）



③ IR連携ゾーン

- ・隣接する第1期区域（IR区域）と連携することにより相乗効果を高める機能の導入
（導入施設例：ホテル、MICE施設 等）

④ 大阪ヘルスケアパビリオン跡地活用ゾーン

- ・ヘルスケアパビリオンの取組みを継承するため、先端医療・国際医療・ライフサイエンスに係る機能を導入
- ・残置または移築するパビリオンの一部と一体となったにぎわい機能を導入
（導入施設例：先端医療・国際医療・ライフサイエンスに係る施設、ホテル、オフィス、商業施設、MICE施設 等）

4. 都市空間形成方針

(1) まちの骨格の形成

① うるおい軸

- ・ 駅前から水辺軸（大阪湾）へ直線的かつ開放的な眺望を確保するとともに、水・みどりを効果的に配置した「うるおい軸」を形成

② にぎわい軸

- ・ 駅前から第2期区域内の各ゾーンを結び、将来的には第3期区域に至る、にぎわいを創出する歩行者の主動線として「にぎわい軸」を形成



うるおい軸・にぎわい軸のイメージ

(2) 上質な非日常空間の形成

- 都心部にはない広大な土地を最大限活かした、ゆとりのある建築物や道路などの施設配置や、豊かな水・みどりを適切に配置した上質な憩い・やすらぎ空間の整備などにより、第1期区域との連携・相乗効果による、夢洲でしか体験できない非日常を演出する都市空間を形成

(3) 水とみどりあふれる空間形成

- まちの骨格や建築敷地内のパブリックスペースにおいて、SDGsの達成に向けた環境共生（都市の自然生態系の創出等）などに配慮しながら、適切に水・みどりを配置し、うるおい・憩いを楽しむ空間を形成

（４）魅力ある景観の形成

- ・アイコニックで個性豊かなデザインの建築物や空からの視点など様々な視点場からの見え方を意識したランドスケープ等により、第1期区域とともに、大阪の新たな象徴となる都市景観を形成

(1) 道路ネットワークの形成

- 適切な交通処理を実現し、快適な移動に資するため、外縁部に、既設の観光外周道路とつながる、道路を整備するとともに、土地利用計画、必要に応じて区域内に区画道路を整備



(2) 歩行者動線ネットワークの形成

- 夢洲全体の一体性を確保するため、第1期区域から第3期区域まで連続した回遊性の高い歩行者動線ネットワークを形成



(3) 円滑な地区内等移動手段の確保

- 第2期区域のみならず夢洲全体の回遊性を高め、安全・安心で利便性の高い地区内移動を実現
- 来訪者の安全・安心な移動を支える循環型交通モビリティや、来訪者の回遊を促すパーソナルモビリティの導入を検討
- 万博において実証・実践される、最先端技術を活用した次世代モビリティや移動サービスなどの実装をめざす

— Smart Mobility EXPO(スマートモビリティ万博) —



画像提供: 関西電力・OsakaMetro

大阪・関西万博の未来社会ショーケース事業で設定されている6つの領域のひとつであり、カーボンニュートラルが実現された未来社会の姿を描き出すも。スマートモビリティ万博で実証・実践する次世代技術・先端技術・社会システムは以下のとおり

会場アクセスバス、アクセス船／会場内・外周バス／会場内パーソナルモビリティ／ロボットエクスぺリエンス／空飛ぶクルマ 等

6. 万博レガシーの継承（ソフトレガシー）

- 大阪が強みを有する産業（健康・医療産業など）の研究成果などに来訪者が接することができるショーケース機能の導入や、最先端技術の実践・実証の取組み、スマートシティプラットフォームの構築など、万博理念を継承する取組みを展開
- あわせて、「大阪スーパーシティ全体計画」における「夢洲コンストラクション」等のプロジェクトで実現した最先端技術やサービス等を、夢洲第2期区域の開発において展開

取組例

i. 健康医療

- PHRデータの活用による健康プログラムの提案
- 体組成／健康状態自動測定

ii. モビリティ

- 空飛ぶクルマの商用運航の実現可能性及び空飛ぶクルマの離着陸場の整備の検討
- 自動運転バス等の導入とともにモビリティ専用レーンの検討
- PRTシステムの導入
- MaaSの導入（交通、観光、宿泊など、より利便性の高いサービスの導入に向けた検討）
- EV・FCバスの導入やバス対応の充電設備、水素ステーションの整備といったゼロエミッションモビリティの推進

iii. 環境

- 太陽光発電、蓄電池、帯水層蓄熱、e-メタン活用等の再生可能エネルギーの利用
- 雨水・中水利用
- 自立分散型電源、バイオガス発電

iv. スマートシティ

- ホテル客室入退室やモビリティ予約者認証等の生体認証技術の導入
- デジタルツインの構築と広域データを活用した、交通流の最適化や、防災・環境のモニタリング及び情報発信、観光プランの提供等の都市のマネジメントを実践する。

v. 夢洲コンストラクションの継承

- 建設工事現場内外の移動円滑化（データなどの活用による交通量予測に基づくピークシフト誘導 等）
- 建設工事・資材運搬円滑化（データ及びセンシングによる局所的な気象予測）
- 建設作業員の安全・健康管理円滑化（バイタル情報及び位置情報によるリアルタイムでの安全・健康管理）

6 万博ハードレガシーの継承（ハードレガシー）

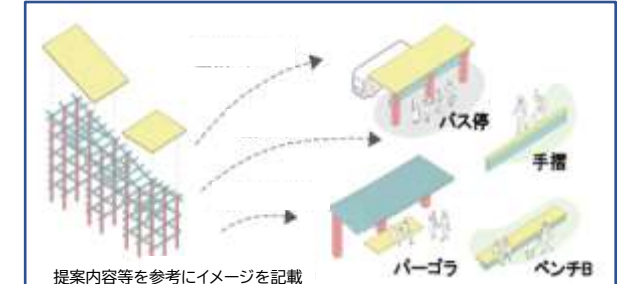
大屋根リング

- 「夢洲第2期区域マスタープランの策定に向けた民間提案募集」において決定した優秀提案では、大屋根リングの一部を残置改修してモニュメントとして活用する提案、大屋根リングを解体し、その部材をリユースし、ベンチやパーゴラなど来街者が触れられる箇所に使用する提案があった。
- 今後、提案内容をベースに、大屋根リングの所有者である万博協会及び関係者と協議を進めていく。

【優秀提案1】
一部を残置（改修）しモニュメントとして活用



【優秀提案2】
部材としてリユース



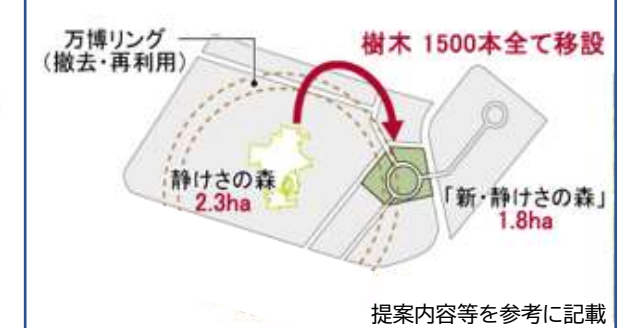
静けさの森

- 「夢洲第2期区域マスタープランの策定に向けた民間提案募集」において、決定した優秀提案では、概ね区域を変更せず樹木を再配置する提案、区域を夢洲駅南側に移設し樹木を再配置する提案があった。
- 今後、提案内容をベースに、静けさの森の所有者である万博協会及び関係者と協議を進めていく。

【優秀提案1】
概ね区域を変更せず樹木を再配置



【優秀提案2】
区域を移転し、樹木を移設

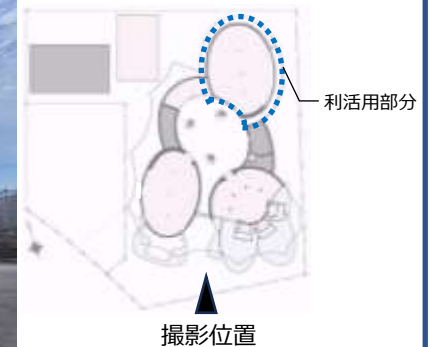
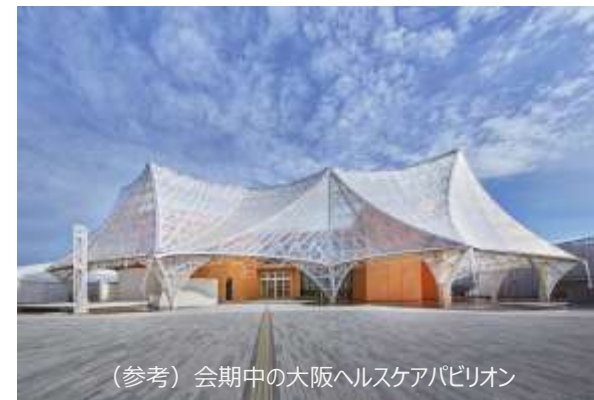


大阪ヘルスケアパビリオン

- 会期中のヘルスケアパビリオンの取組みをハード・ソフト両面でレガシーとして継承することとする。
- 建物の一部を残置または敷地内で移築※し、民間事業者所有のもと、ヘルスケアパビリオンにおいて大阪の強みを活かして展開する「先端医療」・「国際医療」・「ライフサイエンス」に係る事業を実施する。
- 建物の耐用年数を踏まえた土地の貸付により、レガシーとしての継続性を確保する。

【利活用部分の概要】

- 鉄骨造2階建
- 延べ面積 約2,000㎡（ヘルスケアパビリオンの一部）



7. まちづくりDX・GXの推進

(1) 安全・安心なまちの実現

- ・災害時等においても、被害の軽減と迅速な復旧活動による経済活動の早期回復をめざし、デジタル技術やデータの活用、自立分散型電源の設置等により、災害レジリエンスの向上に努める
- ・第1期区域の開発事業者や行政等との連携・連絡体制を構築し、すべての来訪者及び夢洲で働く従業員の安全・安心の確保に取り組む

(2) 快適性・利便性の高いサービスの提供

- ・万博で活用された先端的技術、サービスの展開・高度化に取り組む
- ・回遊性に配慮した施設配置とともに各種センサー類の設置等により、地区内で得られる各種データの蓄積・活用を行い、最先端技術の提供などによる交通円滑化に資するサービス活用を推進
- ・デジタルツインの構築と広域データの活用などによる、交通流動の最適化や、防災・環境のモニタリング及び情報発信、観光プランの提供等の都市のマネジメントを実践

(3) 環境技術を活用した持続可能なまちの実現

- ・カーボンニュートラルやゼロエミッションの実現に向け、万博での新技術の実証・活用の取り組みを継承し、実装につなげる
- ・環境問題を含む社会問題の解決を都市力・企業価値の向上につなげるとともに、持続可能な社会の実現に向け、グリーンインフラに関する取組を推進

8. エリアマネジメントの推進

- ・夢洲第2期区域において、長期にわたってエリア全体の価値や魅力の向上に取り組み、まちを一体的に管理運営する組織（エリアマネジメント団体）を、開発事業者が主体となり組成
- ・エリアマネジメント団体においては、「まちの活性化」「にぎわい創出」「安全・安心」の取組みを展開するとともに、スマートシティに関する取組みを支えるデジタル技術の導入、万博レガシーを継承する実証・実装の先進的取組みなどを推進
- ・第1期区域や、第3期区域（将来）の事業者と連携しながら、夢洲全体のエリアマネジメントに取り組む

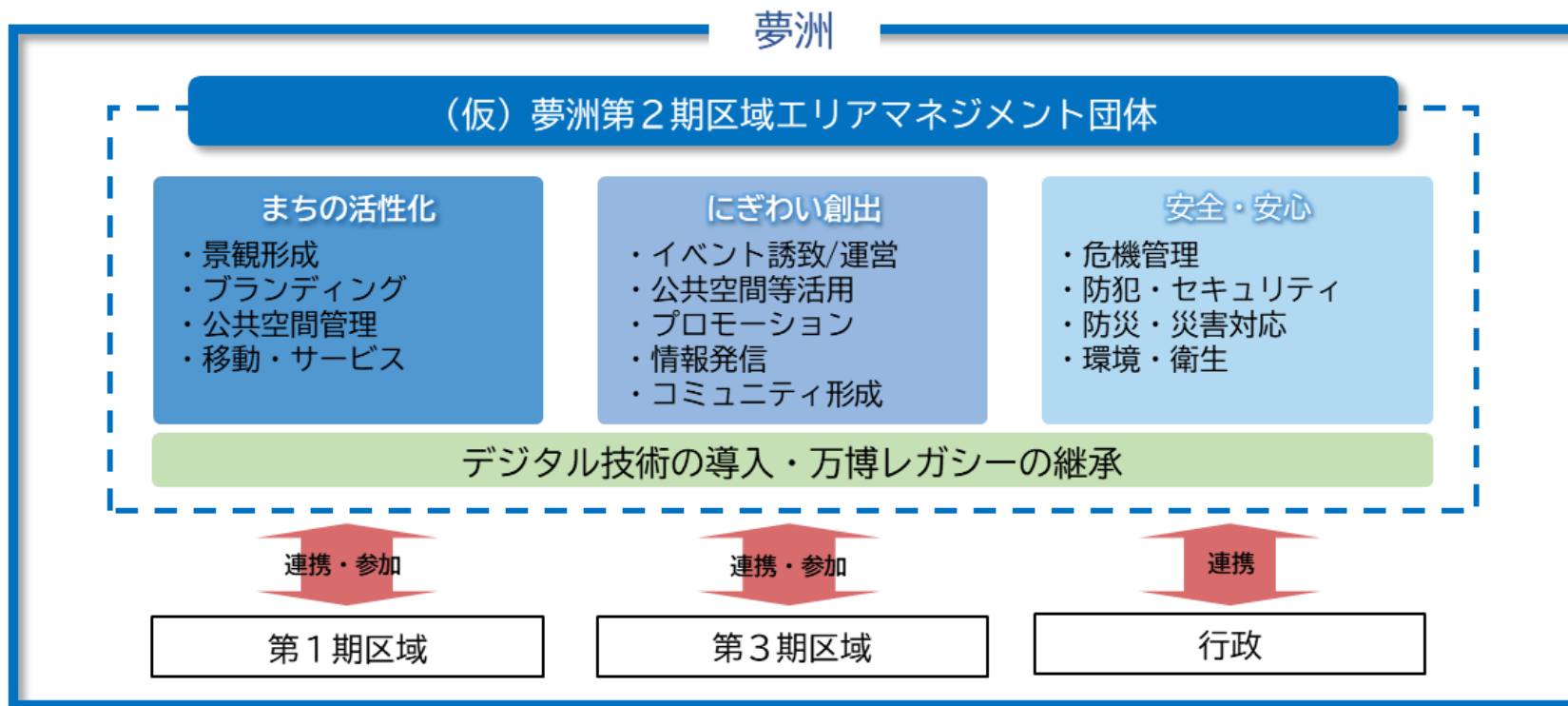


図 夢洲におけるエリアマネジメント組成のイメージ

9 今後の進め方

